

しん えい 伸 叡 月 報

2026年7月号

6月の授業記録をお送りいたします。

今年は曇天と雨天のみならず、複数の台風が関東地方に接近する異例の梅雨となっていますが、皆様におかれましては益々ご健祥のこととお慶び申し上げます。

さて、多くの中学校・高校では1学期末試験も終了し、生徒の皆さんは返却された答案に一喜一憂しつつ、いくつかの反省点を見出している頃でしょう。夏休みが目前となり、その間の予定や計画をあれこれ考えて期待に胸を膨らませる時期でもあります。まずは一学期の学習を振り返り、満足また不満に感じた部分を確認し、不満だった部分はすぐに修正し、修正に時間のかかりそうな部分は夏休み期間も利用して焦らず計画的に直していくようにしましょう。

一方で、この時季ならではの急な気温上昇によって、体調管理の難しい時期でもあります。適切な水分補給と自己管理にも気を配り、来るべき本格的な夏を乗り切りましょう。**当塾では水筒・ペットボトル等、蓋のある容器での飲料持ち込みを認めています。**

そして、学校が夏休みに入ると、当塾では夏期講習が始まります。復習、積み残し回収、予習に励みましょう。また、学校の授業進行が40日あまり止まっている間に、いろいろな課外活動にも是非いそしんでください。

【教室からのお知らせ】

① 夏期講習のお申し込みを、なるべく7月18日(土)までにお願いいたします。

時間割作成の都合上、7月18日に一度時間割を確定させます。

様々な事情で18日までに予定を決められない場合、21日以降の空きコマにご案内いたします。

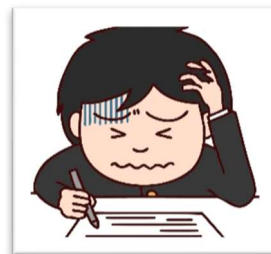
※学習習慣維持のためにも、90分×6回はお申し込みになることを強くお勧めします。

② 定期面談においでになった皆様に御礼申し上げます。

なお、面談期間以外でも随時ご面談のお申し込みは受け付けております。ご希望の際はご連絡のうえ、日時をご予約ください。

学習のアドバイス

今回は定期試験が終わったタイミングですので、効果的なテスト直しの方法をお話しします。
テストが行われ、答案が返される時には必ず「正解できなかった問題は必ず書き直しなさい」と言われるでしょう。



特に中学校においては書き直し専用の用紙が全員に渡され、宿題として課される場合もあります。

たとえ何も言われなかったとしても、テスト直しは必ず行いましょう。科目ごとに書き直し専用のノートを作って、テスト時期と、大問番号と小問番号を明記したうえで問題も(数学や理科で計算が必要なものは途中式も)書き写し、正解だけでなく必ず誤答(または「空欄」)を併記し、正解できなかった原因を書き添えます。後日このノートを開けば、無駄の

ない効率的な復習ができます。

さてここで注意すべきことは、同じ「正解できなかった」ものでも「誤答」と「空欄」は区別しなければならないということです(解答用紙の空欄をなくす目的でとりあえず書いた答えも事実上「空欄」と同じです)。

「空欄」は、そもそも答えを出せなかったということです。原因はほとんどの場合「問題の意味が分からなかった」「答えを思い出せなかった」「知らなかった」のいずれかに当てはまります。意味が分からなかった問題は必ず調べて、またはほかの誰かに説明してもらい、その内容を書き直しノートに書いてください。答えを思い出せなかった問題はその旨と「今なら答えられるのに悔しい」などの素直な感想を書きつつでもいいでしょう。知らなかった問題は初めから学ぶ場合と同様にその内容が書いてある教科書・参考書を見て、ポイントとなることを書き留めてください。いずれも正解を見て書き写すだけでなく、その答えでなければならない理由も必ず書き添えましょう。

精査が必要なのは「誤答」です。こちらは「迷った」「勘違い」「意味の取り違い」「計算ミス」など実に様々な原因がありますが、「空欄」との最も大きな違いは、曲がりなりにも自分なりの答えを出すことができた、ということです。

書き直し時は冷静でしょうから、解答や解説を見ずにもう一度、直しノートに問題を書き写したうえで解いてみましょう。正解が出るのがほとんどだと思います。多くは問題を書き写しているとき、または計算問題の途中式を書いている途中で、どこで間違えたかを見つけることができるでしょう。もちろん「ここで間違えた」箇所に目立つように印を書きこみ、さらに誤答そのものを併記して自分への戒めにしてください。

ここでぜひ思い出してもらいたいのが、テストの本番中にその問題を手掛けていた時に自分がどんな気持ちだったか、またどんな体調だったか、ということです。テストに限らず、本番中に冷静でいることは難しいものですが、その冷静さを失わせるできごと、例えば前の時間のテストでミスをしたことに気付いた、「いつでも思い出せる」はずの答えを思い出せなかった、終了時間が迫っていた、はたまた前日の晩に遅くまで勉強した挙げ句にテスト中ずっと眠かった、などといったことがなかったか思い返してみてください。もし心当たりがあれば、それが原因で間違えた旨を書き加えてもいいでしょう。

でも、冷静さを失っていても解けた問題だってあるでしょう? 何が明暗を分けたのでしょうか?

それは、「どれだけ身に付いているか」という定着具合にほかなりません。本番直前でも気合を入れて覚えた内容や、初めて覚えてから時間が経っていても繰り返し現れる内容は、極端な話、意識を半分失っていても解けることが少なくありません。逆に、「こんな簡単なことはいつでもできる」と高を括っていたり、過去にしっかり身に付けた経験があるもののそれから間が空いてしまっていたりといった内容は、いざというときに思い出せず、本番でもむしろ失敗の原因となり得ます。



ですから、間違いノートに誤答や空欄の原因とともに書き直しをすることは、知らなかったことやあやふやだったことを正確にするだけでなく、頭の奥底でさび付いてしまっていた記憶や能力を呼び覚まし、再び武器として使えるようにすることにつながるのです。この営みは、次回以降の定期試験のみならず、むしろ入学試験や社会に出てから現れる諸問題に立ち向かうときに、絶大な力を発揮させてくれるのです。

(安達)

※8月の授業スケジュールは「夏期講習のご案内」をご参照ください。

